福島県PTA連合会会報
第24号_S62.10.20

福島市黒岩字田部屋53-5
福島県青少年会館内
福島県ＰＴＡ連合会
発行人　阿部真樹
印刷　泉孔版印刷所
福島市泉字熊野13-1
電話57－1071

大会主題

――次代を創る子どもの広い心とたくましい体を育てるＰＴＡ活動――

時代を拓く大会　盛会裡に終わる

第36回福島県ＰＴＡ研究大会いわき大会

「次代を創る子どもの広い心とたくましい体を育てるＰＴＡ活動」を大会主題に、第三十六回福島県ＰＴＡ研究大会が、九月十・十一日の二日間にわたりいわき市で開催された。県内各地区より二千三百余名の会員のご参集を得て、熱心な研究協議が行われた。

一日目は、大黒屋の同好会による「じゃんがら念仏踊り」に始まり、開会行事が行われた。主催者の挨拶のあと、感謝状表彰状の贈呈があり、労をねぎらった。その後、六分科会に分かれて研究協議を行ない、各分科会とも充実した内容でテーマにせまることができた。

二日目は全体会から始まった。今回は、各分科会報告を〝速報〟にかえ、その代りにシンポジュムを実施した。「適正な進路指導を父母と教師はどう進めたらよいか」をテーマに協議が行われたが、ＰＴＡの大きな今日的課題であるだけに、真剣に話し合われ、的を得た企画であった。

いわき明星大学の福永安祥先生の講演は、家族学校・地域のもつ教育の意義を検討しながら、今日の教育のあり方について、豊富な資料をもとに具体的に話された。

来年度の開催地・耶麻地区に県連Ｐ旗引き渡しの後、万歳三唱を平市民会館大ホールいっぱいにとどろかせ、閉会した。

二十一世紀につながる新しい活動の一環として、意義のある、実り多い大会であった。

輝く受賞者

昭和六十二年度県連Ｐ会長表彰、受賞者芳名。

《感謝状》

「県連Ｐ前会長副会長」

前会長　西條　善男
前副会長　藤田弥五兵衛
前副会長　佐々木　博

「県連Ｐ前理事」

星　毅一　光家正恭
鈴木弘治　有賀保二
長澤利枝　菅野英夫
利根川靖典　青戸正行
菊地昭次　小野　哲
五条方明　奥山重男
水口ミキ

「県連Ｐ前事務局長」

岡崎英夫

「各郡市前事務局長」

関根千代二　佐藤一位
八巻　誠　窪小谷二良
立石昭治　鈴木俊三郎
本田忠治　松本春帆
平野久仁雄　浅沼恒昭
佐藤孝二　斎藤政二
二瓶新平　坂本和夫

《表彰状》

福島市立平野小ＰＴＡ
同　市立松川小ＰＴＡ
同　市立大森小ＰＴＡ
同　市立蓬莱東小ＰＴＡ
同　市立水保小ＰＴＡ
同　市立立子山中ＰＴＡ
本宮町立岩根小ＰＴＡ
安達町立下川崎小ＰＴＡ
二本松第三中ＰＴＡ
郡山市立熱海中ＰＴＡ
同　市立富田東小ＰＴＡ
同　市立安積一小ＰＴＡ
同　市立日和田中ＰＴＡ
同　市立金透小ＰＴＡ
天栄村立天栄中ＰＴＡ
長沼町立長沼小ＰＴＡ
岩瀬村立白江小ＰＴＡ
古殿町立田口小ＰＴＡ
常葉町立関本小ＰＴＡ
船引町立堀越小ＰＴＡ
常葉町立西向小ＰＴＡ
矢吹町立矢吹中ＰＴＡ
東村立東中ＰＴＡ
西郷村立羽太小ＰＴＡ
泉崎村立泉崎二小ＰＴＡ
会津若松市立六中ＰＴＡ
同　市立鶴城小ＰＴＡ
同　市立謹教小ＰＴＡ
河東町立河東三小ＰＴＡ
坂下町立広瀬小ＰＴＡ
柳津町立柳津中ＰＴＡ
いわき市立大野中ＰＴＡ
同　市立湯本一中ＰＴＡ
同　市立郷ケ丘小ＰＴＡ
同　市立泉小ＰＴＡ
同　市立勿来二小ＰＴＡ
同　市立錦小ＰＴＡ
双葉町立浪江小ＰＴＡ
同　町立双葉中ＰＴＡ
鹿島町立鹿島中ＰＴＡ
原町市立原町一小ＰＴＡ
小高町立金房小ＰＴＡ

分科会報告

第一分科会

「地域に根ざした、機能する組織・運営を考えよう」

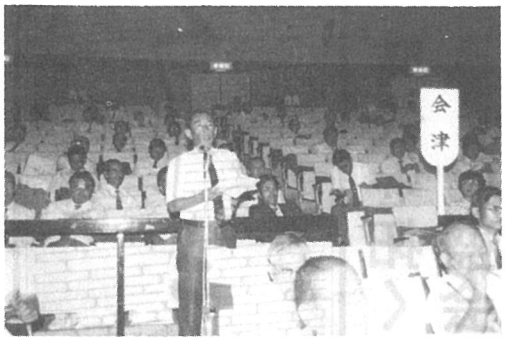
提言では、熊町小から、一部の人に任せきりになる、父親の参加が少ない等の問題点、喜多方二中の教養講座をはじめとする諸活動により、会員の積極的参加を図る運営、矢野目小からは、会長及び役員のリーダーシップ発揮の重要性と、Ｔに頼らない自主的活動のあり方等が発表された。

ＰＴＡ会費、諸活動の予算と方法について質疑応答がなされ、親子のつどい、親子全校給食会、緑の少年団、地区懇談会、スポーツ少年団、ＰＴＡ文庫、会報発行と配布状況等について話し合われた。

◎一箭、須藤両先生から、次のような指導助言があった。

ＰＴＡ本来の目的を見究め、活動の中味の検討をすること。臨教審答申でも、家庭・地域の教育力の回復が強調されているが、地域に根ざした活動として、地域懇談会等地区ＰＴＡ活動の重視、父親参加の工夫、広報活動の充実、Ｔ側のみに依存しない運営、公民館等のリーダー養成講座への参加等、実情に即した活動が大切である。

また、スポーツ少年団については、その性格等から、学校教育とは区別して考えるべきである。



第二分科会

「時代を見つめ、創意を生かした研修活動をすすめよう」

提言では、五百川小から、家庭・学校・地域の連携による教養活動のすすめ方として、会員自身の計画運営で、身近な素材を活用し、誰でも気軽に参加できる集会の推進。常葉中から、ＰＴＡ活動に参加することが即ち生涯学習であり、自らの教養、識見をどう高めたらよいかを認識し、学習することが大切である。高田小からは、広報活動の工夫として、報道の意義を重視し「なぜ報ずるのか、報じなければならないのか、報じた方がよいのか。」更に、速報の効果を大切にし、全会員に学校やＰＴＡの姿が良く見えるようにする。

研究協議に入り、生涯教育の基礎になる話し方の訓練、立志式、広報誌のつくり方の研修方法等について話し合われた。

◎岸下、鈴木両先生から次のような指導助言があった。

教養活動の在り方は、家庭・学校・地域の三者連携を保ちつつ、地域に開かれた学校、地域に密着したＰＴＡ活動が望ましい。子供達の健全育成と会員の教養を高める為、関連団体とのタイアップを図りながら実施推進すること。「出前ＰＴＡ」など、あるべき姿である。

情報氾らんの現代では広報誌も相当研究しないと折り込みチラシにも太刀打ちできない。会員全てには「知る権利」があり、発行側には「知らせる義務」があることを心して、工夫されたい。

第三分科会

「家庭教育の役割を考え、学校との連携を深めよう」

熱海中より、学校教育の目標を理解し、親同志が協力することが大切であり、参観日やＰＴＡ活動に積極的に参加することにより連携は深まる。父母も教師も確かな情報意見を交換し、子供を正しく理解していくことが必要であることが強調され、有意義な事例が発表された。中谷一小からは「人間性豊かな子どもを育てるために創造的にＰＴＡ活動を進めよう」をスローガンとして、父親授業参観・家庭教育学級学級懇談会・研修視察・学校行事、その他に対する協力活動・会報の発行等を意欲的に行っていることが述べられ、磐梯一小からは、親としての確かな教育観をもち、親と子のコミュニケーションをはかりながら、生活の基本的な行動を育てることを重視している。少年期に身につけるべき行動と作法・考え方の方向と町の特質にかかわる教育の二つの方向がある。

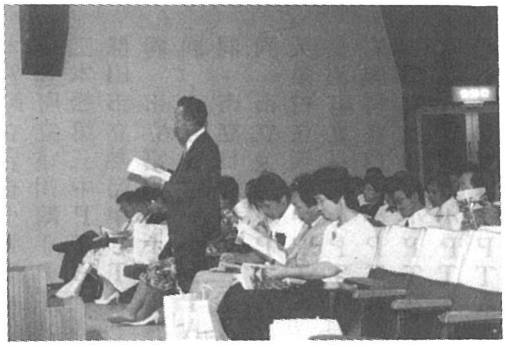
◎加藤、白土先生の指導

・日常生活の中で、自己決定をさせるには親子の対話が大切である。

・子供と親が一体となり汗して活動することで成功感を味わうことができる。

・地域での話し合いを持つことにより、学校では見出せない個々の特性・個性を発見することができる。

・学習することにより親が変ると子供も変っていく。家庭と学校と地域が一体となることである。



いわき大会

第四分科会

「体験の場を広げ、自ら学びとる活動をすすめよう」

提言の青木小より、社会参加活動としてクリーンナップ作戦・町民健康ウォークを実施。地域の各種団体・機関との連絡調整に努め親子が共に活動している。また、指導者としての教師の地域社会への参加が大切であるとの発表があり、西方小からは、主な活動として、祖父母学級、虫送りの行事、雪国の生活からの体験学習を実施しており、今後も会の歴史と伝統を大切に地域にあった活動を進めていきたいと提言され、須賀川三中からは、獅子舞の復活、郷土誌の発行、親子史跡めぐり、教育講演会、他校視察等を年次計画に従って実施している。子供の教育には親自身が諸活動に積極的に参加し、子供達に学ぶ姿勢をみせることが必要であると述べられた。

◎長嶺、松本先生の指導

・社会参加には、家庭での親子の活動が大切。

・活動に当たっては組織や役割を明確にしておく。

・企画の段階から子供が参加できるよう配慮する。

・広い心とたくましい体を培うには、父母が家庭教育の中で指導する。

・行事の参加については子供の考えを生かし、親子共同ですることが大切。

・子供の負担が過重にならないように行事の精選をする必要がある。

第五分科会

「地域の教育力を高め、活性化をはかる活動をすすめよう」

提言では、重点目標を設け、地域・学校・文化関係団体との連携による行事等の推進。学校の教育方針に基づく生徒の健全育成のための活動やＰＴＡの研修と広報活動。ＰＴＡ組織活動を通しての勤労体験学習等行事への参加や、公民館活動との連携による愛の一声運動などが紹介された。

討論では、共働き家庭が多くなった中で、地域教育の活性化を図るにはどうするか。ＰＴＡ活動は、スタート時点にかえって考え直す時期にきているのではないか。挨拶運動に力を入れ、標語を募集したり、立看板などを作って住民に啓蒙活動を続け挨拶日本一を自負している。地域の教育力は、学校・家庭の教育力を高め協力を得てこそ向上する。地区における幼・小・中・高の連携を更に考える必要がある。地味で平凡な活動も大切。教育力を高めるため、何ができるかを考えるのも大切。などの発表があった。

◎草野、鈴木先生の指導

助言では、地域の教育力の低下が言われているが、家庭でのしつけ、その中味が問題である。子どもたちの体験の不足が教育力の低下にかかわっていると考えられるので、体験学習の生活化が必要である。ＰＴＡ活動の反省点として学力向上にのみ向いていて、子どもの健全育成への認識が薄れているなどを指摘された。

第六分科会

「心身に障害を持つ子どもの理解と協力をＰＴＡ活動の中ですすめよう」

提言では、近津小の保護者の理解と協力を得るため「特殊教育の重要さ、特殊学級で学ぶことの効果」についての全保護者を対象としての啓発活動。会津若松二中の自立と社会参加をめざした職業学級生の卒業後の受け入れ企業が少ない。今後、障害児に対する偏見や差別意識をすて、意識改革をしなければならないなどの発表があった。

討論では、何故、入級をこばむのか、その原因を考えるとき、親の心情として、将来の社会生活における不安がある。したがって、入級の過程において、もっと目配りと気配りが大切ではないか。広報紙に、該当者の声を掲載するときは、了解を得るなどの配慮が大切である。学校行事の参加は、基本的にふれ合いの場を大切にする意味から特殊な行事を除き同一参加である。障害児教育の理解を図るのに、ＰＴＡ活動組織の中に養護委員会を設けたら、理解が深まったなどの発表があった。

◎柳沼・佐藤先生の指導

助言では、ＰＴＡ活動は、ぴったり（Ｐ）、手をつなぐ（Ｔ）、あゆむ（Ａ）ことが大事である。ＰＴＡ組織の中に明確に位置づけることが基盤となる。学校行事で、通常の子どもと一緒の機会をもつことは、望ましく学校の理解のバロメーターである。学校は、特殊学級を大切にし、学校教育の基本を確立して欲しい。

記念講演

教育をつなぐもの

いわき明星大学教授　福永安祥先生

今年度開校した、いわき明星大学教授の福永安祥先生の記念講演が、九月十一日午前十時半より一時間半にわたり、主会場の平市民会館で行われた。福永先生は、学生時代に経済学を学び、更に大学院では社会学（特に教育と地域）について研究を重ねられ、現在までの経験、調査結果をもとに講演された。

◎講演の要旨

教育をつなぐものは、直接的に顔を知っている小さな集団（クライマリー）同志をどうつなぐか、つなぎ目になるのは何かについて、かんで含めてわかりやすく、情熱的に講演された。

・教育とは社会の一員として目的をもって形成し育てることである。

教育については、二千年も前の書物に載っているという。先生の長女の子供（孫）が、先生の書斎に入りいたずらをした。叱るのは簡単だが、その部屋の仕組みについて説明した結果、いたずらをしなくなったという。教育の「教」は目上の者が模範を示し、若者にさせることであり、「育」は子供を養って良いことをさせることである。

・氏が育ちか　ー　素質か環境か。

黄熱病の病源菌を発見した野口英世氏は、火傷の手術をした医院に頼みこんで書生になり、医学の勉強を始めた。チャンスをつかむ努力が大成していったと思う。素質か環境かと言えば必ずしもそうではない例である。現代は、両方に恵まれながらガタガタしている人が多いように思う。こちらの方が問題である。

・家族の問題と家庭の移り変わり。

文部省編集の「現代の家庭教育」の中に、乳幼児期、小学校低・中学年期という二冊の書物がある。官庁が家庭についてどうこう言うのは是か非かという問題があるが、育児書の手引として編集したと思えば良いのかもしれない。が、あまり望ましくないと思う。

最近は、核家族や未婚で子供がいないという家庭が増加してきて、兄弟げんかや家族の会話が不足になりがちである。そこで、電話やメモが心と心をつなぐ重要な役割をもつことになる。さらに、昔は家庭で行っていた躾や家庭教育を、学校に任せるという現象がでてきた。

・まとめ

直接的に知っている小さな集団（クライマリー）の重要性が大切になる。

今日の地域社会において、地域をつくるのはＰＴＡであるということに気付いた。ＰＴＡ・親と先生の横のつながり、ＰＴＡ・親と親をつなぐ横のつながりが地域をつくっていると思う。

文部省唱歌の「すずめの学校」にもあるように教師は生徒を指導し、励ますことが大切であると考える。大人が子供に、親が子供に教えることが人間社会の基本である。

家庭・学校・地域をつなぐものはＰＴＡであり、すなわち、教育をつなぐものである。

シンポジュウム

勿来一中ＰＴＡ会長　湯田文郎先生
郡山一中校長　三瓶三昭先生
いわき短大教授　天岩静子先生
（司会）赤井中学校長　塚本文雄先生

テーマ　「適正な進路指導を、父母と教師はどう進めたらよいか」

・湯田先生の要旨

わが家の子育てを通して、進路と将来の選択について親として手助けできることは、家庭と学校の連絡を密にして、子供の考えを引き出しながら親の考えを出していくことである。

・三瓶先生の要旨

高校進学について、秋山ちえ子、大宅壮一両氏の例をあげ、能力を伸ばす教育をということで、適性に合わせて個性豊かな教育が理想である。

・天岩先生の要旨

心理学の面から、意図的な教育と無意図的な教育の効果、動機づけについて例をあげて説明し、親が学ぶ姿を子供に見せるように心がけることが大切である。

引き続き三名の講師の補足説明があり、その後質疑応答があった。

・県社会教育課主幹　片岡義和先生の指導

今回シンポジュウムを企画したこと、テーマとして「進路指導」を取り上げたことは、大変適切である。時間不足ではあるが、今後も十分話し合いを深めていく必要のある課題である。

初めての企画で、日程上やや無理な面もあったが、会員一人ひとりがＰＴＡの問題として真剣に受けとめる姿が見られ、有意義な会となった。

いわき大会に参加して

飯野中ＰＴＡ会長
伊藤守敏

「次代を創る子供の広い心と逞しい体を育てるＰＴＡ活動」という主題のもとに、県下約二千名の会員と教育関係者の参加を得て、盛大に開催されましたことは、誠に意義深いことであります。

私も初めての参加で、各分科会の熱心な討議、各校の研究発表等、21世紀を迎えるに当たり、子供達は勿論、私達ＰＴＡのあり方を、もう一度深く考えさせられました。

物質豊富な時代に欠けているのは、主題にあるとおり、広い心と逞しい体作りだと新たに認識しました。一ばん大事なのは、各人がそれぞれの立場で、今やるべきことは？一ばん必要なものは？欠けているものは何か？ということではないでしょうか。

今後複雑多様化の教育の現状を考え、こうした大会を通しての学習・経験を生かして、各地区に持ち帰り、新たな活動を生む一つのきっかけ作りに、私達ＰＴＡ会員が、一致団結して努力するときだと思います。一ばん大切な出発点、家庭教育が、子供達に及ぼす影響は大であり、地域社会の協力もぜひ必要なものと思います。

会津坂下一中ＰＴＡ会長
井関敬一

「次代を創る、子供の広い心と、たくましい体を育てるＰＴＡ活動」主題のもと、二〇〇〇余名の会員が一堂に会し、全体会、分科会、シンポジュウム、講演会にと耳目を集中し、各単Ｐの活動状況を、反すうしながら、対比、あるいは、悩める問題のヒントを得るべく研究の様子がひしひしと感じられた。

私も幾度か、県大会を経験しているが、この大会を契機に、新しいＰＴＡ活動の芽が出された様な気がした。ともすればＰＴＡ活動は、その学校内だけの活動でありがちであったが、生涯教育が提唱される今日に於いては、地域との関りを考え社会教育活動の核となって、児童生徒の健全育成に情熱を注ぐべきとの助言等も有り、うまく地域の行事に子供達を参加させて成果を上げている提言もなされた。ややもすれば知育偏重になりがちな今日の教育を、地域の伝統、文化行事等に参加体験させることにより、地域との係を認識させて、人間形成の一助となり心の豊かな子供の育成に努めることも大切な事と考えさせられた大会であった。

矢祭中ＰＴＡ会長
鈴木義次

御斉所街道をいわき市に入った途端、いわき地区会員の歓迎に出合い感激する。

駐車場案内・受付等、心のこもったお世話にも暖かさを感じた。

今回の大会の特色の一つに、パネルデスカッションを入れたことが挙げられると思うが、進路指導についてのＰとＴの指導相談のあり方というテーマも適切で、中学校ＰＴＡ会員として、大きく考えさせられるものがあった。

ただ、デスカッションの時間不足もあったので食いたりないものがあったようにも思う。というのは、高校に入学してから、または大学卒業の頃になって、やっと自分の職業が見えてくるという生徒も多いわけで、ＰとＴがもう少し気長に相談にのってもよいのではないかと思ったりした。

小雨の中ではあったが心充ちたりた思いで平をあとにした。

大会事務局から

「いやア、すばらしい速報だねえ。」「シンポジュウムの講師のお話よかったねえ、もっと時間がほしかったね。」等々帰り際、参会者の皆さんからお言葉をいただき、翌日は、また「御斉所街道には歓迎の横断幕を張り迎えてくれた気くばりに感激しました。」との電話を受け、いわき大会は成功したんだなあーと、胸をなでおろしました。

いわき大会開催にあたっては、長い長い準備期間がありました。

昨年の十月の市連Ｐ役員会で期日や会場の検討をしました。期日の選定については、他団体主催の県大会や県議会開催期間、駐車場の確保の問題等で二転、三転しました。

二月上旬には、いわき大会開催基本案の検討に入りました。例年行われていた分科会の報告は、時間が勿体ない、速報を出して報告に替え、代わって「進路指導」の問題を中心とした、シンポジュウムを試みたらどうかと提言があり、これをいわき大会の目玉にしました。

五月には、大会実行委員会を組織して本格的な準備体制に入りました。

各部委員会は、会場・交通・編集等八委員会約二七〇名で構成され、各分担事項を審議確認し、共通理解を図りながら実行にあたりました。

分科会の運営は、平方部の大規模校ＰＴＡで分担し、会場・運営一切を取りしきってもらったことが運営をスムーズにしました。

特に、大会要項・速報発行にあたっては、何回にもわたる編集会議、深夜におよぶ校正のしごと等、編集委員会の皆さんには大変お骨折りをかけました。

記念講演の講師福永先生、シンポジュウムのご三人の講師団の先生方、有意義な講話をいただき有難うございました。

県連Ｐ事務局の永井七郎先生のご指導、関係各位の絶大なるご支援ご協力によりまして成功裡に終了できましたことを心から感謝いたします。

特色あるＰＴＡ活動

＜福島＞ わが校における教養部活動

福島市立福島第三中学校ＰＴＡ

本校は、福島市の北東に位置し、阿武隈川、松川の合流点、信夫ヶ丘競技場、野球場に隣接している。

学区は広く、五つの小学校からなり、生徒数・九五三名、二十四学級と複雑多様化を示している。

わが校ＰＴＡ活動は、五つの専門部と学年部会が車の両輪となり、教育環境づくりに努めている。その中から特に教養部活動について紹介したい。

（コーラス練習風景）

一、教育講演会

毎年度、はじめての授業参観の時に、ＰＴＡ教養部で主催、今年度は、作家の大石邦子先生を講師に招き、生徒といっしょに聴き、深い感銘をうけ、親の役割の大切さを学んだ。

二、研修視察旅行

会員相互の親睦を深め一般教養を高めることを目的とし、今年は「独眼竜政宗ゆかりの地」をたずね、研修を深める。

三、ＰＴＡ図書「さわらび文庫」

バザーの収益金より、図書の充実をはかっている。図書の整理とＰＲを部で行い、会員は自由に借りられる。

四、サークル活動

① 三中ママさんコーラス

月三回音楽堂にて練習、発表の場として、第三地区親子音楽会（健全育成推進会主催）校内音楽祭に参加する。

② 染色教室

会員のなかで、講師を依頼し、学校で三時間程度で完成する物とし、会員の親睦を深める。

③ 県議会の傍聴

今、県において力を入れている問題は何か、特に教育問題等に、関心をもって。

④ 地方裁判所の傍聴

日常機会のない貴重な体験をもとに、子どもにも、社会に関心を持たせ、疑問、興味を持たせる話し合いを家庭で。

本校ＰＴＡは、昨年県連Ｐ会長の表彰をうけたのに続き、日本ＰＴＡ会長表彰を受賞した。今年度、佐野市より先進校視察としての訪問をうけた。

こうした表彰を励みに、なおいっそう、ＰＴＡ活動が子どもと共に、親も教師も成長しあえる場として、内容豊かな前進をめざし努力したい。

＜安達＞ ミステリー列車ミナミ（三七三）号走る

二本松市立二本松南小学校ＰＴＡ

二本松は、春は桜、夏は安達太良登山、秋は菊人形、冬はスキーと四季を通して楽しめる所である。また、千恵子の里、黒塚、ちょうちん祭りは、全国的に有名である。本校は、そういう歴史と観光の静かな城下町の中心に位置している。

児童数は六五六名、学級数二〇の中規模校である。ＰＴＡ活動は、①学年委員会活動、②専門部活動、③育成会活動の三つの柱からなっていて、個性ある活動をしている。その中の一例を紹介したいと思う。

今から二年前の夏休み、七つからなる育成会合同で、行き先のわからないミステリー列車、「ミナミ（三七三）号」の旅を実施した。大人四五三名、小人六三八名、合計一〇九一名の参加で、〇歳児から七十歳代までと年令層が広く、まるで、民族大移動のような騒ぎである。駅ではくす玉が割られ、午前六時四十分北へ向かって出発である。

車内では、どこへ連れて行かれるのかと不安と嬉しさの複雑な顔、顔である。列車にゆられて数時間、なんと！着いた所は松島である。子供達は、「ヤッター。」と叫ぶ。

（ミステリー列車松島到着）

駅では、歓迎セレモニーが行われ、ブラスバンドのお出迎え、嬉しくなってくる。松島海岸、瑞巌寺、円通院、バラ園（昼食洗心庵）等を見て回る。その間、各育成会の会長は、事故のないようにと声をからして頑張っている。また、母親達は、買物に無中になって時間を厳守しない。それを見て、注意する子供達。何ともこっけいである。姉が弟のリュックを持ってあげる姿も美しい。遊覧船に乗ると、大人も子供も大はしゃぎ。お菓子が空を飛ぶ。カモメがパクリ。そんな人なつっこいカモメと遊ぶ。まるで絵の中にいるようだ。どこまでもついて来るカモメにさよならをしたのが塩釜港である。それから、仙台の鉄道館を見学し、全員、無事二本松への帰途に着いた。

一日の旅ではあったが、親子の心のふれあい、思いやり、責任感等を学んだように思われる。こうした心を最も大切にしているのが、本校のＰＴＡである。

特色あるＰＴＡ活動

＜郡山＞ 児童の健全な成長を願って 活発な専門部と委員会の活動

郡山市立大槻小学校ＰＴＡ

本ＰＴＡは、家庭と学校が相互に協力し、児童の健全な育成をめざし、各種の事業を行うことを目的としている。その主なものは、

①会員の教養を高め、親睦を深める。
②家庭教育の健全な発達の推進
③児童の校外生活における安全確保
④広報活動の充実
⑤会員の厚生と体育活動
⑥教育環境の改善

（奉仕作業に汗を流す）

⑦他団体との連携、協調

これらの目的を具現化するために、各専門部や委員会では、次のような活動を行っている。

①総務部……総会、常任委員会、実行委員会の提出案件の準備及び整理、会務の整理及び記録の保存、会員の親睦と他団体との連携等。
②教養部……会員研修会、教育講演会の開催（毎年九月、日曜授業参観の折に実施、外部から講師を招へいし、会員の教養を高めるための講演をお願いしている）、研修視察の実施、会員図書の購入、整理、貸し出し。
③広報部……会報「おおつき」の発行（年四回、毎回特集を組んでいるが、特に60・61年度の二年間は、大槻小学校が、心身障害児理解推進校として文部省の指定研究を行っていたため、交流教育の特集を組み、保護者や地域に対する啓蒙を行った）
④保体部……学年対抗親善球技大会、学校給食の試食会、献血運動への協力（10年以上実施継続）
⑤環境部……学校環境の整備と美化（全会員による奉仕作業を年三回実施）、施設・設備の維持改善及び援助活動、ベルマークの整理（毎月一回整理を行い、年間十万点以上を集め、児童図書購入に役立てている）
⑥校外指導部……朝の交通補導（年間を通して全会員で行っている）、児童の校外生活の安全確保と長期休業中の補導（危険箇所の点検、方部の巡回指導）
⑦学年委員会……学年親子レクリエーション、学年研修会の実施、教育活動の援助等。

こうした実績が認められ、昨年度は、日本ＰＴＡ全国協議会長より表彰を受けている。

＜若松＞ 地域に根付いた「三あ運動」 学校と地域を結ぶＰＴＡ活動

会津若松市立門田小学校ＰＴＡ

過日、門田地区の各種団体長で構成されている青少年健全育成推進協議会（青少協）の主催で、町内の商店主の方々との懇談会が開催された。席上、商店主の方々より本校の子供達に対して、善行の事例の数々が報告された。あいさつ、服装、他人への思いやり、マナー等についてお誉めを頂き大変嬉しく思った。と同時に、学校とＰＴＡで推進している、「三あ運動」が着実に浸透している事を再認識した。

昭和五十九、六十年度、文部省より、道徳教育の推進校の指定を受け、子供達の基本的な生活習慣を身につけさせる為に、「あいさつ、あんぜん、あとしまつ」をテーマにした三つのあ・・・、「三あ運動」が生まれた。

当初は道徳教育推進指定校という事で、学校で検討されてスタートした訳であるが、ＰＴＡに協力要請があり常任委員会を中心に、「学校・家庭連携推進会議」が発足した。私達ＰＴＡも物心両面から援護、研究発表会終了後も引き続きこの運動を推進している。

その後地区委員会、補導委員会に子供会育成会も参画、町内全域に「あいさつ道路・さわやか道路」等が設けられた。

（学校家庭連携推進会議）

学校での先生方のご指導は無論の事、地域の皆さんのあたたかいご理解とご協力を頂き、運動の輪が広がり定着してきた。以前にも県Ｐの会報に一部ご紹介申し上げましたが、数年前より準備を進め昨年盛大に行われた創立百周年記念事業の数々、例年開催されます町民運動会、町民文化祭へのＰＴＡとしての協力、今回の「三あ運動」の推進等、学校・ＰＴＡ・地域の皆さんの三者が一丸となってこれらの事業を推進していきたいと思う。

県下有数のマンモス校として、小廻りのきかない部分も数多くあると思われるが、この様にして、ＰＴＡ本来の活動を通じ、学校からＰＴＡ、ＰＴＡから地域の皆さんへと、学校と地域の皆さんとの橋渡し的な役割の中で、よりよい教育環境をつくり上げ、子供達の健全育成を計って行きたいと思う。

特色あるＰＴＡ活動

＜両沼＞ わが学校とＰＴＡ活動

会津坂下町立第二中学校ＰＴＡ

本校は会津盆地の西北に位置し、農業を主とし、工、商の地域産業が栄える人口二万人の町である。

近くに、県立少年自然の家、県立農業センター、国宝立木観音堂、町には二校の県立高校と町立第一中学校があり、文教の町ともいえる。

本校は昭和三十六年四月に、五地区が統合して開校したもので、生徒数は現在三八九名である。

（進路指導委員会の話し合い）

本校のＰＴＡ活動内容を紹介する。

①生徒の健全育成を目的とした進路指導委員会、②父母と教師を中心に活動する専門委員会、③執行部と学校が一体となって行う地域懇談会の三本の柱を中心として活動している。

②は他校と同じように広報、教養、補導、厚生、環境整備委員会がある。

本校の特色は①の進路指導委員会と夏休みに行われる②の地区懇談会であるといえる。

五地区の懇談会には三役も出席する。父母から学校に対する要望、意見を、学校側から生徒や学校の状況などを出しあい、話し合う。

この中から大切と思われる問題をピックアップしてアンケート調査などを実施している。

地区懇談会は会員に大変好評で、参加者も毎年70％台になっている。

学校では話しにくい事、先生に直接きいて欲しい事など種々雑多であるが今後も継続したいと思っている。あくまでも地域の子どもを地域の父母が守り育てていくことが目的で、学校運営、生徒指導に生かしている。

また、本会の委員会活動や執行部の基本的な取り組み方の資料にしている。

本校は、昭和五十六年、五十七年、六十年に全国相撲大会に出場、五十九年度福島県「よい歯の学校」特別優秀賞受賞、六十一年度優良ＰＴＡ文部大臣賞受賞などがあるが、これは、歴代の役員及び会員の方々、学校職員、地域の方々の長年の実践とご支持、ご協力の賜である。

私たちは先輩の方々のご努力をうけ継ぎ、より一層の努力を重ね、本校と本会の発展のため尽力するつもりである。

＜西白＞ 学習の森の開発、整備、充実に向かって

表郷村立表郷小学校ＰＴＡ

表郷小学校ＰＴＡは、昭和五十五年四月一日、表郷村の五つの小学校、一つの分校が合併し、同時にＰＴＡが誕生したことから活動が始まった。

これまでの間に他校視察による研修、各種備品類の移送や整備への協力、あるいは環境整備のための植樹作業や芝張りの奉仕活動、学校特設給食のための食堂（全児童七三二名が一同に会する）の設置に伴い、学校給食への理解と協力など、ＰＴＡ本来の目的である児童の健全な成長を図るため、学校及び家庭における教育の理解、学校、地域における教育環境の改善・充実、児童の校外における生活指導等に則して活動を進めてきた。

その成果が認められ、昭和五十九年度、学校給食研究で文部大臣賞受賞、昭和六十一年度、東北ＰＴＡ連絡協議会表彰を受賞した。

現在行っている主な活動を組織の上からみていくと、各学年委員会では、授業を中心とした児童理解のための懇談会、父母の教養を高めるための講演会、講話を聞く会、学年行事への全面的協力等。

（学習の森整備作業）

専門委員会である教養部では、広報紙「まとい」Ｂ５版十二ページの編集発行。厚生部では、給食試食会、親睦を図るための学年対抗球技会、施設部による廃品回収、奉仕活動企画等。補導部による地域の危険箇所の整備、補導活動等があげられる。

今、豊かな人間性をもつ児童の育成をめざして親と子、教師と児童共々、村役場、農協等関係機関との連携のもとに、約一・三ヘクタールの村有林鶴子山野外学習の森の開発整備を行っている。

森の下刈り、木材の伐採と運搬、野鳥の餌となる実をつける木の植樹、教材観察としての植物の移植、芝張り、村の憩の場として、あるいは、自然の中の教室として活用できる「ふれあい小屋」の建設等めざましいものがある。

親子で郷土の自然を見つめさせる機会にするとともに、自然に親しむ態度を培い、郷土を愛する心豊かな子どもに育ってほしいという願いをもって、たゆみない実践活動を行っている。

特色あるＰＴＡ活動

＜いわき＞

勤労生産学習を支えて

いわき市立大野第一小学校ＰＴＡ

農業が八割を占める農村地域の本校は、専業がわずか三戸で、兼業農家が大部分である。

ＰＴＡ、地域一般の理解と協力を得て、本校では現在も〝勤労生産学習〟を継続実践している。

四年前の公開発表以来活動実践の意義を理解し玉造農園と実習田活動に協力援助している。

発表会には、農園等の準備・環境・接待・案内から経費その他、学校の意向に添って全面的に協力できた。

以後、農園の土地提供は、会員と地域の方の理解で確保している。起耕や整備、技術的な面にも援助している。

ＰＴＡでは、これについての組織的な協力委員会は設けず、会長を中心に役員・会員の連携のもとでやっている。

実習田は減反とからんでの特別な事情があったが、ＰＴＡが中間にあって、学校と地主との接渉にあたり、学校近接の耕地を借用することができた。何よりもまして学習活動を支える大きな力だと思う。

水田の管理は例年の通り第五学年ＰＴＡの直接援助を仰ぎ、苗の育成から起耕・整地・収穫・餅搗まで、子どもの作業体験がスムーズにいくように蔭の力となり、勤労生産学習を進めるための援助をしてもらっている。

（起耕応援のＰ会員）

また、学校花壇の一部に、地域特産の菊の栽培を手がけ、子どもに手入れ作業の体験をさせる場を設けているが、これも会員の援助をお願いしている。作業が多忙な時期に重なるのでこれも大変なことである。

勤労生産学習に関することのみ記述したが、直接作業は労力奉仕とし、子どもの活動に係る経費の一部は廃品回収で捻出している。各地区ＰＴＡの活動で、一般家庭にも呼びかけて協力を仰ぎ、収益をあげている。

秋の収穫祭には、子どもたちが、感謝と収穫のよろこびを表わす集会をひらき、ＰＴＡとの結びつきを一層深めている。

土に親しみ、自然を愛することで心豊かな児童の育成をはかる勤労生産学習の意義を理解し、協力するＰＴＡとして活動している。

＜相馬＞

駒小の特色づくりに はげむＰＴＡ

新地町立駒ヶ嶺小学校ＰＴＡ

「心身ともに健康で、創造性に富み、情操豊かな実践する子ども。」本校の教育目標である。

先生方が学校教育のあらゆる機会と場を通して、子供達に健全な発達と円満な人格の形成をめざして日夜の努力をして下さっている時、ＰＴＡの役割は、側面から出来る支援と協力の仕方を追求することにおのずとかかってくることになろう。勿論ＰＴＡ活動には会員の教養の向上と親睦を図ること等の目的がある事は論をまたない。

本校ＰＴＡの目的を具現化するためには、六つの委員会活動がその任を負っている。

①総務委員会…総会。役員会の準備。各委員会間の調整。

②教養委員会…ふるさとの史跡めぐり。講演会。

③広報委員会…会報「大銀杏」の発刊。委員会だより、職員紹介など。

④厚生委員会…運動会の協力。親子レクリエーションの計画。先輩の音楽を聞く会等の企画。

⑤施設委員会…校地・校庭の整備。校舎清掃。バザー実施等。

⑥補導委員会…長期休業中の補導。学区内危険箇所の確認と赤旗立て。有害図書追放。自転車通学免許テストの協力等。

となっている。

（遊具作りの奉仕作業）

本校は学区内中央部の丘の上に立っており、周囲は緑の林に囲まれた閑静で恵まれた環境にある。この優れた環境を生かしＰＴＡでは学校緑化、校庭整備、体育施設設備の充実など教育環境の整備につとめて来た。それらの努力が実って花いっぱいコンクールでは県知事賞をはじめ連続特選、環境緑化では理事長賞、また、県小教研指定体育研究ではその実践と内容が認められ文部省表彰を受け、陰から支えたＰＴＡに県連Ｐ及び東北連Ｐより表彰を受けている。

また、児童の登下校安全確保のため、交通安全母の会との連携を強め、年間を通しての立哨指導を行い交通事故の絶無を期し好成績を収めてきた。

学校と常に密接な連絡を取り合いながら、援護活動に力を注ぎ、裏方にまわる事にもＰＴＡとしての大きな役割があると考えているからである。

県ＰＴＡ安全互助会だより

〝ＰＴＡ安全互助会とは〟

児童・生徒においては両親の管理下にある自宅での思わぬ事故から、戸外での遊び中の事故や、子ども会行事での事故、登校、下校を除く交通事故にいたるまで、あらゆる傷害に対し、割合に簡単な手続きで保険金が支給される。また、ＰＴＡにおいては、ＰＴＡ主催共催する行事に参加中（往復途上も含む）の会員に傷害事故が発生した場合、安い会費（一世帯あたり一四〇円）で補償されるものである。

なお、ＰＴＡが団体として活動中、その他の第三者に与えた管理責任による賠償事故を補償する制度もセットになっている。

〝ＰＴＡ安全互助会加入状況〟

別表

昭和六二年度の加入校は、昨年度を三％も上まわり、八七％の加入率となった。地区別に見ると、まだまだ差があるが、九月三〇日現在で、七地区が一〇〇％加入となり、昨年度より一地区増えた。

見舞金支給件数は九〇〇件で、学童では、自宅で遊んでいての傷害や自転車に乗っていての傷害が多く、半年で六名もの学童が死亡している。ＰＴＡでは、ＰＴＡ球技大会中、練習中の傷害が多い。

なお、昭和六一年度四月一日以降の傷害で、まだ未請求のものがあれば本会まで提出していただきたい。

昭和62年度福島県ＰＴＡ安全互助会加入状況

（62.9.30現在）

区分＼地区	小中学校別					
	小学校		中学校		合計	
	加入単Ｐ数	加入率	加入単Ｐ数	加入率	加入単Ｐ数	加入率
福島	47(20)	97.9	19②	90.4	63	95.7
達南	13(2)	100.0	3	100.0	16	100.0
伊達	30(11)	100.0	8	100.0	38	100.0
安達	32(12)	97.0	9	75.0	41	91.1
郡山	56(3)	96.6	21	84.0	77	92.8
岩瀬	19(2)	79.2	7	53.8	26	70.3
石川	26(7)	100.0	8②	100.0	34	100.0
田村	37(12)	97.4	13	87.5	50	92.6
西白河	26(8)	96.3	13	92.8	39	95.1
東白川	18(1)	81.8	2	50.0	20	76.9
若松	13	81.3	7	77.8	20	80.0
北会津	16(4)	100.0	6	100.0	22	100.0
両沼	17(6)	94.4	3	27.3	20	66.7
大沼	10(2)	100.0	4	100.0	14	100.0
耶麻	26(1)	78.8	9	60.0	35	72.9
南会津	19	100.0	10	90.9	29	96.7
いわき	51(9)	69.9	29①	69.0	80	69.6
双葉	19(5)	100.0	11①	100.0	30	100.0
相馬	32(16)	100.0	14①	100.0	46	100.0
合計	507(121)	91.0	196⑦	79.4	703	87.4

（）は幼稚園数，○は養護学校・分校

表彰

安全互助に功績顕著

県ＰＴＡ安全互助会は、児童・生徒、及び、会員の安全を願い、事故防止に努めるかたわら、万が一の事故に対する補償の確立を図るために、県連Ｐの一事業として創設して、十三年目にあたる。

年々、会への加入率も上昇し、安全互助に対する関心も高まっている。

本会は、県傘下の学童、会員の事故防止と、安全互助に尽力し、功績顕著である団体を毎年県ＰＴＡ研究大会の折に表彰している。今年度の表彰団体は、次のとおり。

達南ＰＴＡ連合会
伊達ＰＴＡ連絡協議会
石川地方連合ＰＴＡ
北会津ＰＴＡ連協会
大沼郡連合ＰＴＡ
南会津ＰＴＡ連協会
双葉郡ＰＴＡ連合会
相馬地方ＰＴＡ連協会
西白河ＰＴＡ連協会
福島市ＰＴＡ連合会

第十一回子どもの災害事故防止ポスター・習字募集実施要領

主催
福島県ＰＴＡ連合会
同　安全互助会

後援（予定）
福島県教育委員会
福島県小学校長会
福島県中学校長会
福島民報社
福島民友新聞社

対象
福島県小・中学校

応募規定
募集要項参照（十月中旬各小中学校へ配付）

応募締切
昭和六十三年一月末日

提出先
県ＰＴＡ連合会事務局

入選発表
昭和六三年二月下旬
福島民報・福島民友・県連Ｐ会報掲載

優秀作品表彰
賞状・記念品を添えて表彰する。

◎多数の応募をお待ちしております。

「月刊ＰＴＡ」購読のすすめ

日Ｐ事業の一つとして「月刊ＰＴＡ」を発行していることは、既にご承知のことと存じますが、ＰＴＡの専門誌としてひとりでも多くの方のご購読をすすめております。

ご希望の方は、県連Ｐ事務局へご連絡下さい。

編集後記

▼青く澄みきった空に、色紙を切り抜いて貼りつけたように吾妻山がくっきり。どこからか菊の薫が……。▼秋まさにたけなわ、各単Ｐでは、いろいろ活発な行事が展開されていることだろう。▼会報第24号「いわき大会特集号」をお送りする。▼大会に関する紙面は全部大会事務局に依頼し、大へんお骨折りをいただいた。深く感謝する次第である。▼今大会は内容面・運営面にも改善がはかられ、すばらしい盛りあがりをみせた大会であった。▼好評の「特色あるＰＴＡ活動は、今回より増面し、常時八単Ｐの紹介ができるようになったのは嬉しい。▼各単Ｐのご活躍を祈るや切。